

キラリ★ひと言

ひとの気持ちのありがたさ



犬飼町田原
橋本 敦

月日の経つのは、早いもので私が犬飼町を終のすみかとして決めて18年が過ぎました。自然に恵まれ、人情の深いこの地で、わが子を育てたいと感じての決心からでありましたが、住んでみて、予想できなかったことが沢山ありました。中でも決して忘れることができないのが、平成5年の大野川氾濫による大洪水です。

わが家は、1階部分の大半が浸水し、命からがら逃げ出しました。その浸水後の生活は、言葉にできないほど大変でした。しかし、親族はもとより、地元消防の方々、地域の皆さん方の様々な支援により、もとの生活ができるようになりました。この時ほど、人の気持ちのありがたさを感じたことはありませんでした。その後、いろいろな水害対策が施されてきましたが、根本的な解決には至っていないように思われます。

新市では、私たちのような被災者がひとりでも減るように、取り組んで行っていたきたいと思います。

最近では、犬飼バイパスの開通により、交通渋滞も緩和されました。またひとつ、幸せが増えました。

次世代の子どもたちが、私のように豊後大野市が最高のすみかであると、胸を張って言える日がくることを楽しみにしています。

知らないということ…。



三重町久田
児玉利子

春まだ浅い3月半ば、ばったり知人と出会った。その知人いわく。

「町村合併をして何もいいことがない。しない方がよっぽどよかったと、みんな言いはる。」

私は、その言葉を聞いて腹が立った。そう言っている人たちは、何も知らないのだと思って……。

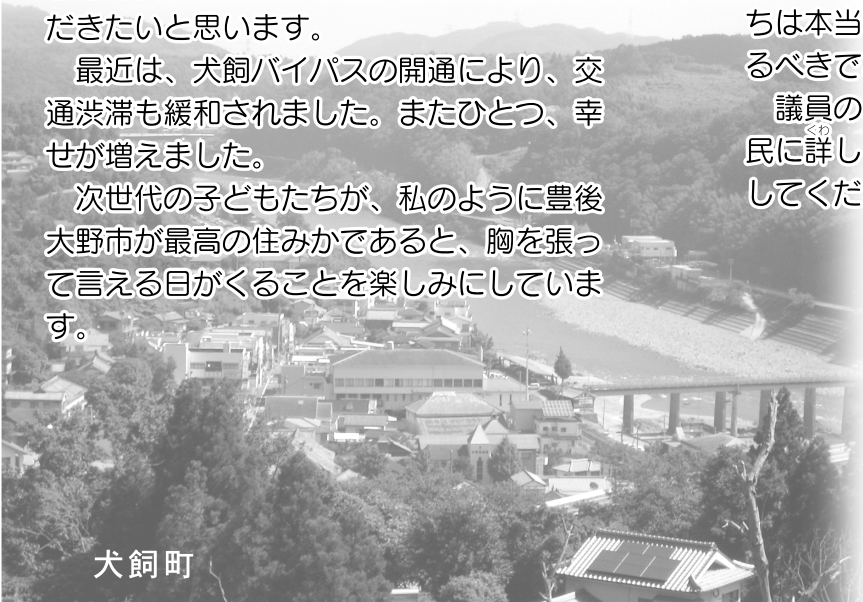
「何を言うの。あなたの町が借金でどれほど困っていたか、合併できて助かったと思うべきよ。」と私は言った。

自分の住む町の財政を何も知らないから、行政サービスを求めてやまないのだと思う。

政府も、県も、市町村も借金だらけだ。6月24日の新聞に、『国の債務残高が国民ひとり当たり648万円』の見出しで書かれていた。

大きく歴史が変わりつつある現在、私たちは本当の政治の実態をもっと勉強して知るべきである。

議員の皆さんは、今までと違うことを住民に詳しく説明し、理解を深めるよう努力してください。



犬飼町